様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　４ 月 ２９ 日現在

機関番号：３３９３６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ０２３７４

研究課題名（和文）子どもにおける生まれ変わりの思想と心理的危機に関する研究

研究課題名（英文）A Study of the Idea of Reincarnation and Psychological Crisis in Children

研究代表者
宮田　延実（MIYATA, NOBUMI）

人間環境大学・看護学部・教授

研究者番号：１０７４２５２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、生まれ変わり思想が、いじめや厳しい叱責などにより、心理的危機に陥った子どもに与える影響やその背景について分析し、支援策を検討することである。生まれ変わり思想をもつ子どもは、いじめに遭うことに敏感に反応し、死にたい思いを抱きやすいが、自尊感情の高揚が回復に有効であることが分かった。また、生まれ変わり思想には、輪廻転生などの仏教思想が認められるが、善行の多寡が影響して何に生まれ変われるか分からないとするタイとは異なり、日本では願えば人に生まれ変われるとする自由な考えが形成されやすいことが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　近年、子どもがいじめやひどい叱責をうけて自死するといった事案が目立つ。希死念慮を抱くような心理的危機に陥った子どもが、生まれ変わりたいと願う心理的特徴を検討し、また、「生まれ変わり」思想が形成された背景を探ることは、教育的支援をしていく上で意義がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to analyze the impact of reincarnation ideology on children who have fallen into psychological crises due to bullying or severe reprimands, and its background, and to examine supportive measures. Children with the reincarnation ideology are more sensitive to bullying and more likely to have thoughts of death, but it was found that raising their self-esteem was effective in their recovery. In contrast to Thailand, where people do not know what they will be reincarnated into due to the influence of their good deeds, in Japan, people tend to think freely that they can be reincarnated as a person if they wish.

研究分野：教育学

キーワード：生まれ変わり　心理的危機　小学生　自死　仏教思想　タイ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

仲村(1994)によると、子どもは児童期あたりから、死によって体の機能は停止し、再び生き返ることは出来ない死の現実的意味を理解し、これらの自覚から死は自分にも起こり得ると考えるようになる。それはやがて死後の世界への想像、願望、希望となって膨らみはじめ、特に年齢が高くなるにつれて「生まれかわり思想」の増加が目立つという。また、上薗(2000)は、小学生は死という刺激語から容易に自殺を連想し、死につながる要因として自殺を意識化すると指摘する。死にたいと思うほどつらい出来事に出遭ったとき、「生まれ変わり思想」を抱く小学生は、安易に自死を思い浮かべる可能性があると考えられる。

自死を選択した北海道滝川市の小学校 6 年女子（文部科学省、2006）は、いじめを訴えた遺書を残し、大阪府の小学校 5 年男子（日本経済新聞、2013）は学校の統廃合の中止を訴えた。彼らは何かを訴えるための手段として、自分の命を引き替えにしたようにも考えられる。

Adler, A(1996)によると、自殺には「復讐と告発」といった目的があるという。人の生まれ変わりを信じる小学生は、先の調査によると全体の 2 割に満たないが、心理的な危機に遭遇した場合、自死を復讐や告発のための手段とする危うさが考えられる。なぜならば、現実検討能力が低い子どもが、自分も生まれ変われることを信じることによって、自死が頭の大半を占め、他の解決の選択余地を狭めてしまうことになると考えられるからである。

Shneidman, E.S.(1993)は、自死の実行については、自死とそれ以外の選択に揺れているうちは、まだ実行に移さないが、自死しか選択の余地がなくなった場合は実行の可能性が高くなると指摘する。前述の小学生の場合は、大人に比べて問題解決や目的達成の選択肢が自死しか眼中になく、実行に移してしまった可能性が考えられる。子どもの自死が社会問題となっている昨今においては、自死を防ぐことが喫緊の課題である。特に、人の生まれ変わりを信じる子どもがいじめ等により死にたいと思うほどつらい出来事に遭い、心理的な危機に陥ったとき、どんな心理的なメカニズムが働くのか、また、どのようにして回復していくのかを明らかにしておく必要がある。

２．研究の目的

「生まれ変わり」とは、主体としての「私」が肉体的な死を経験した後に、別の身体をもって再生することと定義する。いじめや厳しい叱責などを受けて自己否定や自尊感情の著しい低下に陥る子どもが少なくない。その中でも、生まれ変わりを信じ、これまでと違う自分に生まれ変わりたいと願う子どもが存在すると考えられる。

そこで、本研究では次の目的を設定した。

(1)「死んでしまいたい」といった心理的危機に陥ったとき、生まれ変わり思想が子どもの自己効力感の低下や希死念慮などに与える影響や要因について検討する。

(2) 日本と仏教国タイの子どもの死生観を比較し、生まれ変わり思想が仏教思想から受けた影響について検討する。

(3) 子どもが生まれ変わり思想を形成した経緯について、幼少期に視点を当てて検討する。

３．研究の方法

本研究では、小学校高学年の子どもを対象として、質問紙調査と聞き取り調査を通して、生まれ変わり思想が心理的な危機をもつ子どもに与える影響について検討する。また、生まれ変わり思想を抱く子どもには、輪廻転生などの断片的な仏教思想の影響が認められることから、仏教信仰国のタイの小学生に対して質問紙調査と聞き取り調査を行い、仏教思想が日本の子どもの死生観に与える影響について日本とタイの子どもの比較を通して検討する。

(1) 日本の子どもの死生観調査

調査対象は、A 県の小学校第 4 学年～第 6 学年（4 年 104 名、5 年 91 名、6 年 102 名）計 297 名である。調査時期は 2018 年 12 月。4 件法（当てはまる 4 点、当てはまらない 1 点）で回答を求めた。

(2) タイの子どもの死生観調査

タイでは、地方都市の方が人々の仏教信仰が厚いと考え、チェンライの学校を訪問し、調査した。訪問校は、アヌバーン・チェンコン学校（小学 1 年から中学 3 年までの 1372 名在籍）、バーン・パー・ムアード学校（同、636 名在籍）、ドイ・セーンジャイ学校（同、384 名在籍）など、5 小中学校である。

授業視察、仏教教育の事情を学校長や教員、生徒からヒアリングを行い、質問紙調査を実施した。調査対象は、B 小学校第 4 学年～第 6 学年（4 年 70 名、5 年 112 名、6 年 126 名）計 308 名である。調査時期は 2019 年 8 月。4 件法（当てはまる 4 点、当てはまらない 1 点）で回答を求めた。

(3) 親のしつけについてのタイ人へのヒアリング調査

先行研究によると、日本では「鬼」や「地獄」などのイメージによって恐怖心を与えるしつけ

をする親は多い。そこで、タイにおいても自分が親の言うことを聞かないとき、どのような言葉を聞いてしつけられたかについて聞き取りを行った。調査時期は 2019 年 8 月である。

４．研究成果

（1）心理的危機に対する生まれ変わり思想の影響

Figure 1 のように、生まれ変わり因果モデルを構築し分析した。

生まれ変わりを信じる子どもは、いじめられることに敏感に反応し、死にたいという気持ちにつながる傾向がある。しかし、他者に褒められたり認められたりして、自尊感情があれば、死にたいという気持ちはあまり抱かないとの結果が表れた。

特に、心理的な危機といえる、死にたいという気持ちは、何らかの言動に表れない限り、周りが気付きにくい。生まれ変わりを信じる子どもは、死にたい思いが高まっても、それが遅刻や体調不良を訴えるなどの登校を渋る態度に反映しにくいと考えられる。彼らの心理的危機を察知するための細心の注意が必要であろう。

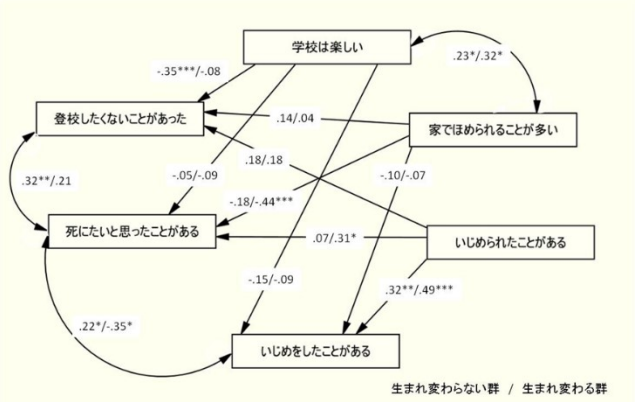

Figure 1 生まれ変わり因果モデル

（2）日本とタイの子どもの死生観

タイ国内には経済的な格差があることや、生活への満足感が低い。また、タイ人の平均寿命は日本人より 8～10 年ほど短く、中央年齢が 36.2 歳で高齢者が少ないこと、家族など身近な死に接することが日本より多い。これらを踏まえ、Table 1 の結果から、タイの子どもは、孤独や生きる辛さを感じながら、長寿はそれほど期待していないと考えられる、しかし、死後生の存在についての信念は日本の子どもより高い。

死後生については、タイには善行により生まれ変わる思想があるが、日本では枠組みがないため自由な死後世界の解釈がなされる可能性がある。

これらのことから、タイでは「生まれ変わり」思想は、自死を誘引するものではないと考えられる。なぜなら、タイでは、善行が少ないまま自死すると、来世は人間には生まれ変われず、動物や昆虫になってしまうため、容易に自死は選択し難い。

逆に、善行が多いと賞賛を受け効力感も高まるので、自死を選択するのは考えにくい。これらのことから、タイの善行を奨励する仏教思想は幼児期から内面化され、死後世界を想像させるものになるが、しかし、日本では、来世は人に生まれ変われるという都合のよい解釈がなされる可能性がある。

Table 1　日本とタイの小学生の死生観の因子の尺度得点の比較

	日 本（n＝297）			タ イ（n=306）	
	平均値	標準偏差		平均値	標準偏差
長寿願望	3.46	0.57	＞＞＞	2.92	0.59
効力感	2.82	0.58	＞	2.70	0.54
孤独や生きる辛さ	1.69	0.64	＜＜＜	1.97	0.68
生活への満足	3.12	0.65	＞＞	2.94	0.63
死後生への信念	2.75	0.79	＜＜＜	3.10	0.62

＞＞＞は 0.1%水準、＞＞は 1%水準、＞は 5%水準である。

（3）養育者のしつけに関する考え方と方法

タイ人 4 名の年代の異なる対象に、自分が親の言うことを聞かないとき、どのような言葉を聞いてしつけられたかについて聞き取りを行った。

次のような結果であった。

20 代男性	悪い子だったら地獄に落ちる、警察に逮捕されると聞いた。
40 代女性	親を叩いたら生まれ変わると手が貝葉のように大きくなる。親に反論したら口が針穴のように小さくなると言われた。
50 代男性	悪い子だったら地獄に落ちると言われたことがある。
60 代女性	悪い子だったら地獄に落ちる事はあまり聞いたことないが、親に嘘ついたら地獄に落ちると言われたことがある。

タイではしつけに地獄という言葉が聞かれるものの、親を大切にするというメッセージを込めたしつけである。

(4) 子どもの死生観が形成される日本的な背景

日本では、古来より鬼を追い払う節分行事や秋田県男鹿半島周辺で行われてきた「なまはげ」などの年中行事がある。「鬼」や「地獄」などのイメージによって恐怖心を与えるしつけをする親は多い。また、千葉県の延命寺所蔵の地獄絵巻を元にして製作された「絵本地獄」は、生前の悪行により、死後に地獄へ連れ去られ、残酷な報いを受けるという内容である。若者の自殺者を抑止する目的という。

これらには、仏教の影響が考えられる。鬼の話は仏教経典を通じてのインドの夜叉などのイメージ、中国の陰陽道のイメージが引き継がれている面が強いという（大満寺、2020)。輪廻転生も宗派によって異なる意味をもつ。しかし、親たちは、仏教思想を切り取って、子どものしつけに活用するために、幼児期の子どもに地獄や鬼を出会わせてきたものと考えられる。子どもが死後世界のイメージを構築上で、本来の仏教思想ではないが、少なからずその影響はあると考える。

しかし、年齢が上がると実態のない鬼は否定され、地獄のイメージがあっても仏教思想は曖昧なものとなる。その時に入手するメディアやネット情報、人から聞く話などから、死後の世界への想像、願望、希望が膨らむ。

以上のことから、日本ではタイのように善行によって救われるという行動規範が明確ではないため、各自の都合のよい解釈がなされ、単に願えば、人間に生まれ変わりができるという思想も現れるようになると考えられる。

日本では、仏教思想の影響はあるものの、死後の世界のイメージについて国民が共有する仏教思想という枠組みはないため、自由発想となり、中には危うい価値観も見られるので、学校教育において、タブーとされがちな死と生について、どのように教えていくかが今後の課題である。

＜引用文献＞

Adler、A　1996 アドラーA. 岸見一郎（訳）2010 個人心理学講義―生きることの科学　一光社.
(Adler, A. 1996 The Science of Living. Redditch Worcs: Read Books Ltd.)
文部科学省 2006 北海道滝川市における小６女子児童の自殺事件の経緯.
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06102402/003.htm)
仲村照子 1994 子どもの死の概念　発達心理学研究, 5(1), 61-71.
日本経済新聞 2013 大阪の小５自殺「学校統廃合中止を」メモ残す 2013/2/16 付.
(http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG1505X_V10C13A2CC1000/)
Shneidman、E.S.1993 シュナイドマン E.S. 高橋祥友（訳）2005 シュナイドマンの自殺学―自己破壊行動に対する臨床的アプローチ　金剛出版.(Shneidman, E.S. 1993 Suicide as psychache: A clinical approach to self-destructive behavior. Lanham, MD: Rowan & Littlefield Publishers, Inc.)
上薗恒太郎 2000 石垣の子どもの死・不死の判断理由についての調査研究　長崎大学教育学部紀要, 58, 17-28.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 折出健二	４．巻 70
２．論文標題 集団づくりの思想と方法論に関する考察	５．発行年 2021年
３．雑誌名 愛知教育大学研究報告（教育科学編）	６．最初と最後の頁 166-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 折出健二	４．巻 108
２．論文標題 学びと教えの思想をもって、子どもの学校を創り出す	５．発行年 2020年
３．雑誌名 人間と教育	６．最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 折出健二	４．巻 12・1月合併号
２．論文標題 集団づくりにおけるケアと自治を考える	５．発行年 2020年
３．雑誌名 生活指導	６．最初と最後の頁 67-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 折出健二	４．巻 3
２．論文標題 「学びに向かう力」を育てる学習集団の指導――「道徳科」授業への提案	５．発行年 2020年
３．雑誌名 学習集団研究の現在	６．最初と最後の頁 51-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松澤美咲，松原紀子	4．巻 4
2．論文標題 小学1年生における手洗いチェッカー・ソングを活用した手洗い指導の効果	5．発行年 2020年
3．雑誌名 養護学実践研究	6．最初と最後の頁 34－37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Naoko Naitoh　Noriko Matsubara　Miyuki Asaoka　Keiko Shidooka　Nakako Fujiwara　Kazuko Mitoku　Miki Kawada	4．巻 1
2．論文標題 A study on child and family support in Finland's neuvola from pregnancy to preschool	5．発行年 2020年
3．雑誌名 岐阜保健大学紀要	6．最初と最後の頁 44-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮田延実	4．巻 34
2．論文標題 生まれ変わりの信念が心理的な危機に陥った子どもに及ぼす影響	5．発行年 2019年
3．雑誌名 学校教育研究	6．最初と最後の頁 106-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大仲聡子、宮田延実、岡崎強	4．巻 61
2．論文標題 職場選択において学生が重視する条件についての一考察―介護職を目指す学生の就労意識調査を通して―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 名古屋経営短期大学紀要	6．最初と最後の頁 114-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 折出健二	4．巻 36
2．論文標題 傷つけられる者と暴力の構図～いじめ・子ども虐待を中心に	5．発行年 2019年
3．雑誌名 生活指導研究	6．最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 折出健二	4．巻 929
2．論文標題 荒れ・暴力・いじめ克服と子どもの自己再生	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人権と部落問題	6．最初と最後の頁 44-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松原紀子	4．巻 2
2．論文標題 コミュニティスクールを活用した「いのちの授業」の実践の効果ー子どもの学び及び授業者の意識の質的調査分析からー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 養護実践学研究	6．最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮田延実	4．巻 19
2．論文標題 子どもの自己制御の発達と達成経験との関係－他者と協同する学校行事を通して－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 学校カウンセリング研究	6．最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 折出健二	4．巻 3
2．論文標題 人権主体の自立とアザーリング	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本ヒューマンヘルスケア学会誌	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 折出健二	4．巻 25
2．論文標題 個人存在の政治化といじめの構図の変貌	5．発行年 2018年
3．雑誌名 年報あいちの子育てと教育と文化	6．最初と最後の頁 18-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松原 紀子、青嶋 裕子	4．巻 4
2．論文標題 コミュニティー・スクール実施による地域住民の意識への影響「いのちの授業」の実施から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本ヒューマンヘルスケア学会誌	6．最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 宮田延実
2．発表標題 生まれ変わりの信念が心理的な危機に陥った子どもに及ぼす影響
3．学会等名 応用心理測定研究会　第4回研究会
4．発表年 2021年

１．発表者名 宮田延実
２．発表標題 子どもの死生観が形成される背景－日本とタイの子どもの死後イメージの違いに着目して－
３．学会等名 日本キャリア教育学会第42回研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 宮田延実
２．発表標題 子どもの「生まれ変わり」の信念が形成された背景－タイと子どもの死生観との比較を通して－
３．学会等名 日本学校教育学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 宮田延実、大仲聡子
２．発表標題 運命や死生観が子どもの実現したい夢に与える影響
３．学会等名 日本キャリア教育学会第41回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大仲聡子、宮田延実
２．発表標題 介護福祉士養成校学生の就業意識と就職先選定-福祉施設説明会開催からの一考察
３．学会等名 日本キャリア教育学会第41回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 宮田延実
２．発表標題 生まれ変わりの信念が心理的な危機に陥った子どもに及ぼす影響
３．学会等名 応用心理測定研究会 第3回研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 折出健二
２．発表標題 〈学び〉〈ケア〉〈自治〉を核とする学校改革と集団の再生は可能か――対話等の関係性と知の自由を結ぶ脱「競争・選別」の学習集団へ
３．学会等名 日本教育方法学会第55回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森川英子
２．発表標題 「いじめられっ子」の逆襲事案　指導経験から
３．学会等名 大阪市立大学医学部看護学科研修会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大仲聡子、宮田延実
２．発表標題 地域愛着を育むキャリア教育による地元志向への効果
３．学会等名 第2回応用心理測定研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 宮田延実
２．発表標題 事前インターシップにおける読書プログラムの効果
３．学会等名 日本キャリア教育学会第40回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 青嶋 裕子、松原 紀子
２．発表標題 コミュニティー・スクール活用した「いのちの授業」の実施による子どもへの効果
３．学会等名 日本養護実践学会第1回学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 森川英子
２．発表標題 養護教諭から校長職に登用された経験者の複眼的視座から校長職務を視覚化する＝危機管理に焦点化して
３．学会等名 第61回東海学校保健学会学術大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 折出健二	４．発行年 2019年
２．出版社 高文研	５．総ページ数 188
３．書名 自立支援とはなんだろう？　福祉・教育・司法・看護をまたぐ地域生活指導の現場から考える	

１．著者名 折出健二	４．発行年 2018年
２．出版社 創風社	５．総ページ数 160
３．書名 対話的生き方を育てる教育の弁証法～働きかけるものが働きかけられる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	折出　健二 (ORIDE KENJI) (20109367)	人間環境大学・看護学部・研究員 (33936)	
研究分担者	森川　英子 (MORIKAWA HIDEKO) (20413388)	奈良県立医科大学・健康政策医学講座・研究員 (24601)	
研究分担者	松原　紀子 (MATSUBARA NORIKO) (70760289)	人間環境大学・看護学部・准教授 (33936)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関